

第59回 札幌医科大学 大学祭

The 59th Sapporo Medical University campus festival

開学 60 周年記念 特別講演会



触れてみよう、医学の世界に。

○ 筑波大学 名誉教授 内藤 裕史 先生 (第7期生)
茨城県立医療大学

『身近な中毒事故』

中毒事故は意外なところで発生し身近に危険が存在します。それを防止するには、どういう場面で事故が発生しているかということを知ることが第一です。今回は、身近な中毒事故、とくにガス中毒についていろいろな実例を紹介し、“ガスパン遊び”による死亡についても言及します。



○ 徳島県阿南市 馬原医院 院長 馬原文彦 先生 (第14期生)

『日常診療と好奇心』 ~日本紅斑熱の発見と臨床的研究~

無医地区で開業後に遭遇した一人の患者さんとの出会いが運命を変えた。新しい病気の発見、日本紅斑熱と命名、国内外の学会発表、…。今日は暫し、非日常的な「マダニと人の関わり(病気)」に耳を傾けて下さい。皆さんの知的好奇心を刺激したいと思います。



平成 21 年 **6月20日(土)** 14時 開演 札幌医科大学 臨床大講堂
(臨床教育研究棟 1F)

入場無料

定員 400名

問い合わせ 札幌医科大学大学祭実行委員会

※当日 13 時から講堂前で整理券を配布します。

program



筑波大学
茨城県立医療大学
名誉教授
内藤 裕史 先生
(第7期生)

『身近な中毒事故』

中毒事故は意外なところで発生し身近に危険が存在します。それを防止するには、どういう場面で事故が発生しているかということを知ることが第一です。今回は、身近な中毒事故、とくにガス中毒についていろいろな実例を紹介し、“ガspan遊び”による死亡についても言及します。



profile

昭和7年東京都生まれ、77歳。

昭和35年札幌医科大学卒業、昭和36年麻酔学教室助手。

昭和40年から2年半米国エール大学附属病院麻酔科レジデント、昭和44年札幌医科大学助教授、昭和46年から1年間米国エール大学薬理学教室研究員。

昭和51年筑波大学教授、昭和56年に筑波大学で中毒110番活動を開始、ボランティア活動として24時間全国からの中毒事故の問い合わせに対応、現在の(財)日本中毒情報センターに発展、現在理事。平成7年茨城県立医療大学副学長。

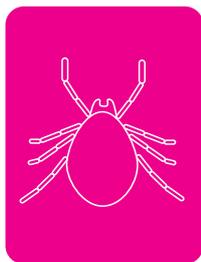
筑波大学名誉教授、茨城県立医療大学名誉教授。

平成3年『中毒百科』(南江堂)、平成13年にその増補改訂版を出版、平成17年に韓国語訳、平成21年に中国語訳が出版される。平成19年『健康食品・中毒百科』(丸善)を出版。現在『乱用物質・中毒百科』(丸善)を執筆中。

平成16年「中毒学の確立」で吉川英治文化賞を受賞。

学生時代から美術に熱中、25年前からヨーロッパ中世の彩飾写本の一枚物の収集を始め、平成16年に『中世彩飾写本の世界』(美術出版社)を出版。

program



徳島県阿南市 馬原医院 院長 **馬原文彦** 先生
(第14期生)

『日常診療と好奇心』 ～日本紅斑熱発見ものがたり～

無医地区で開業後に遭遇した一人の患者さんとの出会いが運命を変えた。
新しい病気の発見、日本紅斑熱と命名、国内外の学会発表、...。
本日は暫し、非日常的な「マダニと人の関わり（病気）」に耳を傾けて下さい。
皆さんの知的好奇心を刺激したいと思います。



profile

昭和16年生 67才 熊本県出身

昭和42年 札幌医科大学卒業

札幌医科大学大学院にて医学博士号を習得。和田壽郎教授に師事し、日本最初の心臓移植手術スタッフの一人。昭和55年、妻の出身地である徳島県阿南市にて馬原医院を開業。昭和59年日本には存在しないとされていた紅斑熱群リケッチア症の患者を発見、「日本紅斑熱」と命名し疾患概念を確立した。平成11年、感染症新法で「第四類届出感染症」に指定されるなど、日本のみならず世界の感染症対策や医学書の記載を変えることになった。この業績は日本内科学会百周年記念誌に野口英世、志賀潔、北里柴三郎らとともに7名の国際貢献者の一人として記載された。

また、媒介動物であるマダニ類の研究にも没頭し、地元ではダニに咬まれる人は多いが、ダニに咬みついたのは馬原先生だけと云われている。

平成元年 日本医師会最高優功賞受賞

平成13年 徳島新聞科学賞受賞

平成19年 小島三郎記念文化賞受賞

現在、藤田保健衛生大学医学部客員教授、東海大学医学部非常勤教授、
ほか多数の大学で教鞭をとる。